

稲・大豆作情報（N0.6）

1. 水稻作況情報田の生育概況(8月6日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概 況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉 色	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/16 17.6株/m ²	本 年	86.7	300	12.3	37.8	さがびよりの幼穂は、 まだ確認できなかった。 全体的に葉齢の展 開が遅れ気味で、葉色 も薄い傾向で推移し ている。
		平 年	87.0	387	12.6	39.8	
		平年比	(100)	(77)	(-0.3)		
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 17.7株/m ²	本 年	72.4	360	11.7	35.3	
		平 年	75.8	504	13.0	36.2	
		平年比	(95)	(71)	(-1.3)		
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/28 20.1株/m ²	本 年	54.8	695	12.0	37.9	
		平 年	60.3	661	12.9	42.0	
		平年比	(91)	(105)	(-0.8)		

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稻

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

2. 水稻管理

○今週の水管理

台風 8 号の影響による風で、葉先の損傷が見られる。根の老化が進むことが懸念されるため、新しい水と交換し、その後はこまめに**間断灌水**を行い、根の機能維持に努める。また、中干しが十分にできなかった圃場においても、間断灌水に移行し、断水期間（水を切る期間）を長めに行うことで徐々に地固めを行う。ただし、土が白く乾かないように注意し、**絶えず黒乾状態**を保つようにする。

○病害虫の発生状況

曇天が続いていたため、いもち病が発生しやすい状況である。一部の圃場では局所的に発生しており、進展型病斑が出ている場合は早急に防除を行う。

高温多湿条件が続くと紋枯れ病が発生する恐れが高まる。田回りを励行し、病斑が確認された場合は、早めに防除を行う。

ウンカ類は、**断続的な飛来があり注意報が出ている**。圃場の状況を確認し、計画的に防除を行う。

○今後の施肥管理

さがびより、ヒノヒカリ、ヒヨクモチの穂肥施肥基準については、「穂肥診断&ウンカ情報について」を参照ください。

3. 大豆管理

7月上旬播種のもの 4~6 葉期、中旬播種のもの 2~3 葉期、下旬播種のもの 初生葉~2 葉期ごろとなっている。2~3 葉期になっていてまだ 1 度も培土がされていない圃場は速やかに作業を行う。

○**排水対策** 局地的なゲリラ豪雨に備えるため、明渠の角・水尻付近が確実に繋がっているか確認を行う。

○**培土** 大豆が 5 葉期以上に生育した圃場では、根粒菌の活動を活発にするとともに、根への酸素供給や根の生育を進めるために培土を実施する。

○**雑草対策** イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル（イネ科雑草 10 葉期まで）で防除する。**アサガオ類やホオズキ**は、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

令和元年8月7日

佐城農業指導者連絡協議会

○病害虫防除(ハスモンヨトウ) 発生状況に注意し白変葉が見られた場合は防除を行う。

令和元年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業改良普及センター

